

留学を通して、茨高で学んだ英語力や教養をさらに深めることができた

S. Y.

東京外国語大学 国際社会学部 国際社会学科 進学
水戸市立 第二中学校 卒業

私は国際教養コースに所属していました。国際教養コースでは、実用英語などの英語の授業はもちろんのこと、日本文化や哲学、社会問題を取り扱うグローバル社会論やアカデミック・スキルズなど、国際人としての教養を培う豊富な授業が用意されています。私は以上の授業を通して、様々な価値観を知り、物事を深く洞察する力が身に付いたと感じています。そして、高校2年次のニュージーランドへの留学を通して、茨高で学んだ英語力や教養をさらに深めることができました。他国から日本社会や自分自身を振り返ることは、社会に対する問題意識を育み、自分の生き方や進路を考える良い機会になりました。帰国後は授業が再開し、受験を意識するようになりました。約半年間のブランクがあったため少し不安な気持ちもありましたが、カリキュラム通りに授業をしっかり受け、自主学習の習慣を身につければ、受験に支障はありませんでした。

私は国際教養コースの協働探究授業という、グループで国際的な社会問題について探究し、実際に問題に対処すべく活動するという授業が最も印象に残っています。私が所属したグループは、若者と高齢者という関係が過疎化した両世代を繋げることを目的に、様々な交流イベントを開催しました。新設されたグループであることも相まって、イベントに参加者が集まらないなど何度も挫折を経験しましたが、その度に課題点を洗い出し、次に繋げることができました。最終的には、人々の交流を促進する活動をする企業の方と連携し、黄門祭りにて人々の交流ブースを設けることができ、成功に終わりました。私は以上の経験により、物事を俯瞰し、メンバーと協力することが成功に繋がることを学び、自信に繋がりました。

私は中学生の頃から日本を出て、様々な価値観に触れたいと考えており、留学カリキュラムのある茨高国際教養コースを進学先として選びました。茨高の良いところは、様々な良い先生がいるということです。先生の授業ももちろんですが、授業中の先生の何気ない一言の中にも学びがあり、学習意欲が掻き立てられました。また、国際教養コースでは、高1の時点で一貫生と高入生が同じクラスとなりますが、特に別け隔てなく仲良くなることができました。他クラスの場合も同様だと思います。

大学進学後は、国際社会学部にて、国際的に問題となっている環境問題の本質を研究したいと考えています。将来自分がどのように環境問題への対策に貢献できるのかも考えながら、充実した大学生生活を送ってみたいです。